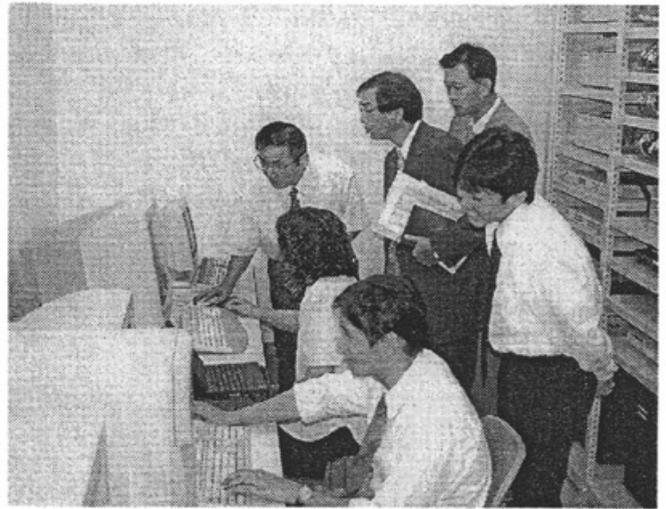


インターネットを授業に



パソコン研修で画面に見入る教師ら

学校の教育現場にインターネットの活用を図る郵政、文部両省の共同プロジェクト「先進的教育用ネットワークモデル地域事業」（学校ネット）が今年度から全国30地域でスタートした。このうち大阪府と和歌山県にまたがる地域では、先月20日から小、中、養護の各学校計38校を結んで運用が始まった。ハード面の整備が進む一方、インターネットを使った授業や交流のあり方、教材の研究はまた緒に就いたばかりだ。インターネットで学校教育はどう変わるのか。「インターネット教育」への期待や課題などを聞いた。

全国30地域で「学校ネット」

大阪府松原市の市立布忍^ニにパソコンが配備されて以来、パソコン教室で先月13、14日に教師を対象にした研修会が開かれた。拠点となる地域ネットワークセンターと同小を結ぶ高速無線通信システム（WLL）について、同小の担当者、田中秀樹技能員（48）が説明する。「学校にある7台のパソコンから同時にインターネットに接続できます」同小では1997年9月

にパソコンが配備されて以来、台数も限られていたため、多数のパソコンを使って一斉に授業を行うには不便だった。しかし、今回整

教師ら活用法を模索

備されたシステムは通信速度が20倍以上にアップ。すべてのパソコンから同時にインターネットへの接続が可能になった。

同小の徳田喜代子校長は「海外を含めてより広く交流するための環境は整っ

教材作り、業界も支援

た。今後は教師がインターネットを使って教材を作れるようになるなければ」と話す。

しかし、具体的な活用法はまだ手探りの状態だ。学校ネットを支援しようと先月11日、コンピュータや通信関連の企業計46社が「先進的教育情報環境整備推進協議会」を結成。教育委員会や学校と連携して、授業や教材作りの方法を確立するための活動を始めた。同協議会の伊原和夫副理事長は「学校現場と情報交換しながら企業の技術力やノウハウを生かしたい」と話す。

文部省によると、全国の学校のインターネット普及率は35・6%（今年3月末現在）。田中博之・大阪教育大助教授（教育工学）は、インターネットを活用した教育について、①ホームページを検索して必要な情報

を手する②ホームページを作り、情報発信する③電子メールで交流したり、専門家に質問する④の3段階があるとし、「日本でインターネットを活用している学校の8割が第1段階にとどまっており、先進国の田中助教授は「教科書教育から子供が主体的に学ぶ教育へ、教師が学びのイメージを変えなければ、ハードが充実しても活用しきれない。検索だけでなく、表現、交流するための時間を確保することも大切だ」と指摘している。

